

## 真（新）の豊かさ・価値観の育成（変革）

～持続可能な社会を自ら創造出来る次世代育成～

グループ名：ESD for U.15+

メンバー：朝井貴裕、河合基樹、高比良直也、長坂充代

チューター：九里徳泰、雪田和人、杉山範子

### 1. 現状の把握（課題認識）

はじめに、“ESD”とは何か、その浸透状況について検討を行った。“ESD（Education for Sustainable Development）”とは、持続可能な開発（発展）のための教育を意味し、環境省では「こども白書」で、文部科学省・日本ユネスコ国内委員会でもその訴求を図ってきている（図1）。

近年では、2014年“ユネスコ世界会議”にて「ESDに関するGAP（Global Action Programme、5つの優先行動分野）」が2015年度以降の政策として「あいち・なごや宣言」に取り入れられている。また、2015年

9月に開催された国連本部「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」も採択され、中核をなす“SDGs”には、17のゴール（図2）が設定された。

このような国際的活動がされている中、今回の提言を検討するため、国内及び愛知県での“ESD”の認知度・浸透度合いについて現状の調査を行った。

図3は、内閣府政府広報室が行った調査結果（2014年8月）を示す。「“ESD”について知っていますか？」の問いに対して、2014年開催のユネスコ会議直前にも関わらず約8割が「知らない」という結果であった。



図1. ESDの概念図  
（出典：文部科学省）



図2. SDGs 17の目標  
（出典：文部科学省）

※内閣府政府広報室が平成26年8月21日～31日  
全国20歳以上1,826人からの調査結果より  
Q. ESDとは、「持続可能な開発のための教育」と訳されていますが、  
あなたは、ESDについて知っていますか。※下記4択

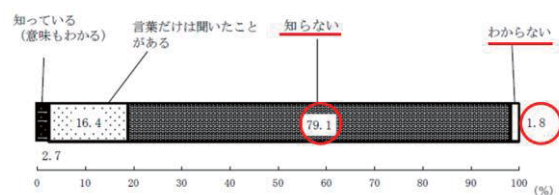
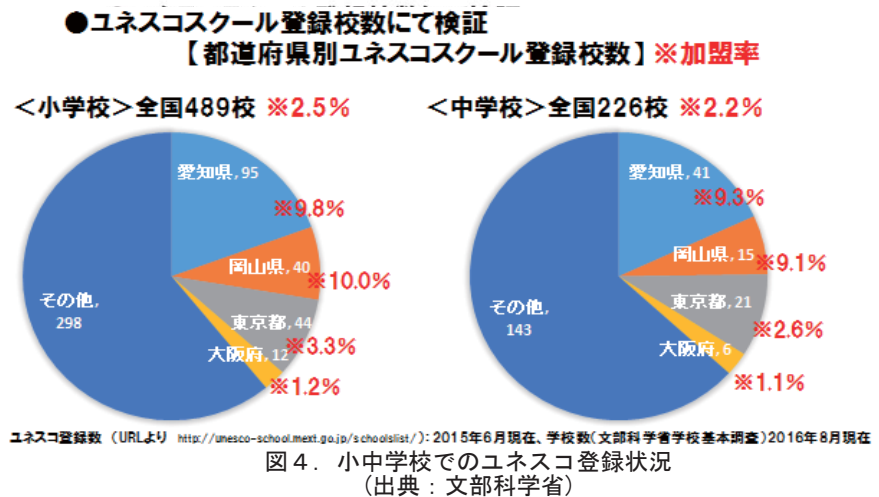


図3. 平成26年世論調査  
（出典：内閣府）

また、“ESD”の活動に関わりの深い「ユネスコスクール」登録校の実態は、図4が示すように全国平均での登録率は2.5%と低調で、2014年“ユネスコ世界会議”が開催された愛知県、岡山県でも、県下の登録校数は、約10%であり、



決して十分に活動がなされているとは言えない結果であった。

さらに、愛知県内での具体的な活動状況を確認した。この結果、様々な環境関連団体が活動しており、特に、環境パートナーシップ・CLUB (EPOC) は、参加企業も募り、学校への「出前授業」、「企業見学講座」を開催している。また、愛知県豊橋市では、「ユネスコスクール」登録率が、小学校・中学校とも100%であり、「東三河ESD・ユネスコスクール」展示会も開催された積極的な地域であった。一方、学校(小学校)の活動状況について、直接ヒアリングした(5校)結果では、「環境」的な教育は実施しているようだが、教育現場での優先課題が、「いじめ」等の対応であり、“ESD”に対する教育は出来ていないのが現状であった。

## 2. 2036年に向けての提言の概要

ESDの実践が不十分な現状を踏まえ、“ESD”の重要性について特に、若い世代(小中学生)に浸透させ、20年後には、この若い世代が中核となって、“ESD”行動が当たり前実践される社会づくりに向け、以下の活動を提言する。

“真(新)の豊かさ・価値観”を自ら創造出来る“次世代育成”強化を目指し

- (i) 学校では実施しきれない体験型・参加型の“場”を企業参加で創る。
- (ii) その推進強化に向けた体制づくりと県内関連団体とのネットワーク強化を図る。

## 3. 提案の内容及び提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)

- (i) 学校では実施しきれない体験型・参加型の“場”を企業参加で創る

自ら関心を得られ、身近なこととして感じる事が出来る“場”を学校以外で提供することが必要と考え、公的な正規の学校教育以外(地域・NPO・企業)の“場”が必要と考えた。図5に示す。

この具体的な“場”の設定に当たっては、愛知県の特徴を活かした関連施設を調査した結果、約120を超える件数が挙げられた。このうち、現時点で環境関連団体としてAELネット(Aichi Environmental Learning Network)が紹介している施設を除き、尚且つ、“ESD”での教育項目の中であまり取り扱っていない「国際理解」「文化」等の項目に関する施設を抽出

した。表1にその例を示す

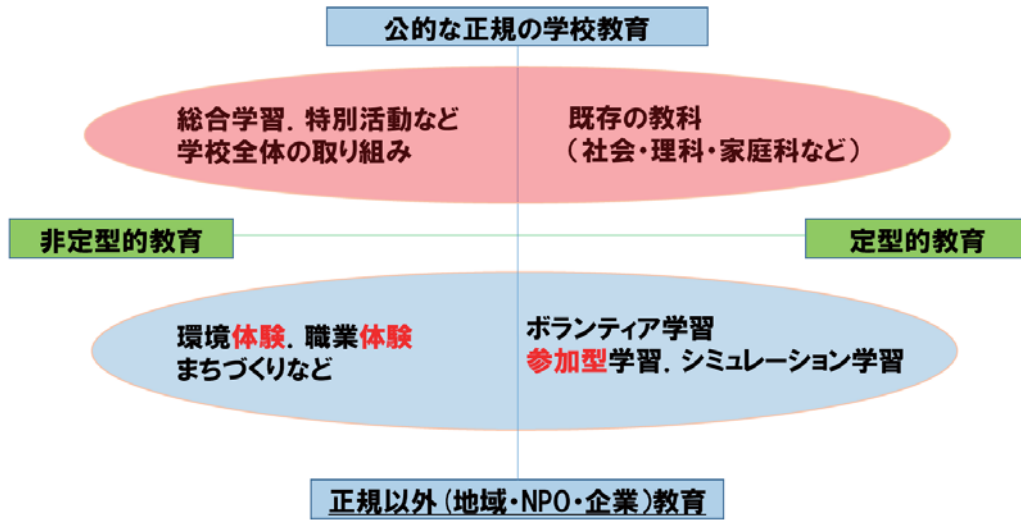


表1. 愛知県内の関連施設例

所在地	施設名	環境学習	国際理解	文化	気候変動	生物多様性	防災学習	エネルギー学習	人権・平和	貧困
豊橋市	豊橋市二川宿本陣資料館			●						
豊橋市	豊橋総合動植物公園(のんほいパーク)			●		○				
犬山市	明治村			●						
犬山市	リトルワールド								●	●
西尾市	愛知こどもの国		●			●				
田原市	田原市リサイクルセンター 炭生館	●				●		●		
名古屋市	名古屋市港区 藤前干潟	●	●	●		●				
名古屋市	稲永ビジターセンター	●	●	●		●				
名古屋市	藤前活動センター	●	●	●		●				
名古屋市	なごや地球広場	●	●	●		●			●	●
豊橋市	商屋『駒屋』			●						
豊橋市	養毛温泉			●						
豊橋市	岩屋山 岩屋緑地			●		●				
豊橋市	豊橋公園 吉田城 歩兵18連隊跡			●					●	
名古屋市	横井庄一記念館		●	●					●	

表1の中で、下記に代表的施設例を挙げる。

- ・リトルワールド ・明治村 ・なごや地球広場 ・愛知こどもの国 ・デンパーク
- ・中部国際空港 ・稲永ビジターセンター ・藤前活動センター ・刈谷市美術館茶室等

上記施設に賛同頂くには、企業(団体)側では集客UPによる経営強化が狙いであり、“ESD”を一つのイベント企画としていかに取り上げるかがポイントになる。結果、“ESD”の訴求を図ることとの「Win-Win」の仕組みを築くことが必要である。

(ii) ESD推進強化に向けた体制づくりと県内関連団体とのネットワーク強化を図る

ESDの「場」の推進に当たって、だれがどのように企てて牽引していくかが実践に向けて重要である。そこで、まず、愛知県内の環境に関する主要団体を調査し、既に“ESD”の活動を行っている協働の可能性がある団体を検討した。その検討結果を表2に示す。

さらに、表2に示すような団体を結び付け、企業(団体)へ参画を働きかけ、愛知県の支援を得られるよう強力に推進する事務局が必要になる。これには、次世代環境リーダーを養成する愛知県と(公財)名古屋産業科学研究所が主催している“あいち環境塾”の卒業生及びそれを指導するチューターを中心に運営される「特定非営利活動法人AKJ環境総合研究所」(以下AKJ)がこの任にあたるべきと考えた。そのネットワーク及びスキームを提言する(図6)。

表 2. 愛知県内の主な関連団体

関連団体名	関連活動概要	連携の可能性
名商ecoクラブ	環境問題に取り組んだことによる経済メリットの訴求	△
※EPOC (次世代交流分科会)	環境行動の契機を企業・学校・地域との交流や情報発信で実施	○
※EPO中部	中部地域の市民・NGO/NPO・企業等幅広いネットワークで環境訴求	○
※なごや環境大学	市民・市民団体・企業・行政が協働でつくる環境活動ネットワーク	○
AELネット	民間や自治体の環境学習施設のネットワーク組織で施設情報提供	◎
※中部大学	生物多様性、環境学習(伝統)文化に重点をおいたESD学習実施	○

(△:共通内容はあるが直接的関与は難しい、○:協働活動が可能、◎:協働活動が大変有効)

※愛知県のESDの活動団体として、中部ESD拠点がある。

参加団体は、72団体で、非常に大規模な団体である。上記のうち6団体の4団体は、そこに参画している。

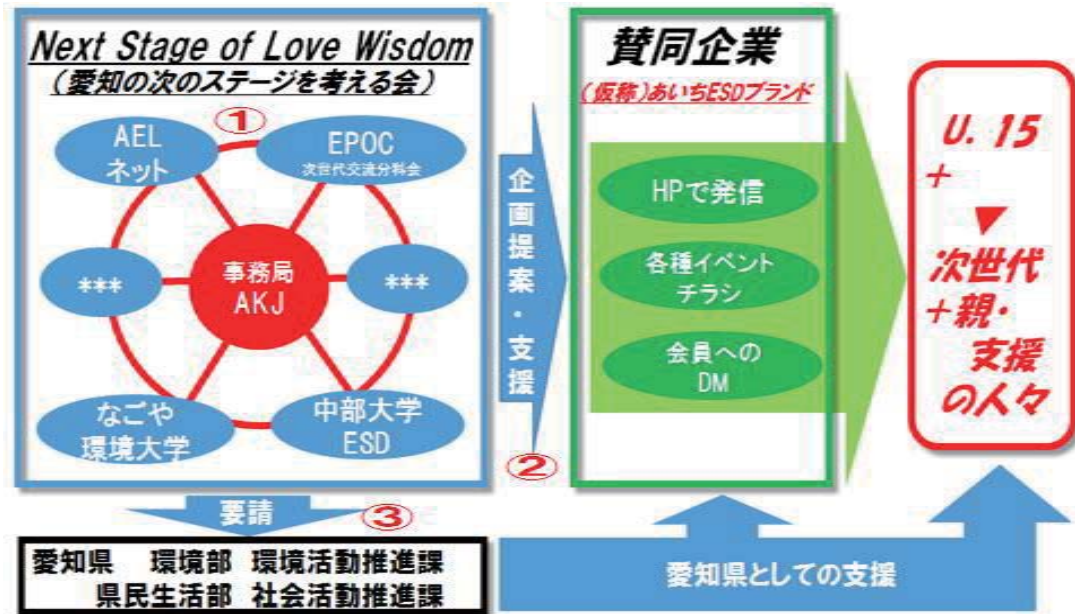


図 6. ネットワークとスキーム

具体的活動項目については、以下の取り組みを考える。まず、AKJ が中核（事務局）となって推進する団体名は、「Next Stage of Love Wisdom（愛知の次のステージを考える会）」とし、関連団体をまとめる。

<団体の主な活動内容> 図 6 の①部分

- ・ 団体活動の情報収集（調査資料等の共有）
- ・ 合同イベント開催（訴求力 UP で集客 UP）
- ・ 意見交換会（ワークショップ）
- ・ 活動内容の発信と発行（Web 等）

<賛同企業（団体）への提案・支援>図6の②部分

- ・企業（団体）の募集
- ・企業間マッチング（共同開催）
- ・イベント企画への提案（メニューと事例）
- ・人材支援
- ・企業でのイベント発信（企業広告も）

<愛知県への要請（支援依頼）>図6の③部分

- ・活動資金（Web 費用等）
- ・賛同企業への認定（あいち ESD ブランド）
- ・賛同企業へのインセンティブ付与
- ・HP 等での企業活動発信

#### 4. 提言実現のためのマイルストーン

2036年（20年後）に向けたSTEPについては以下の内容である。（図7）

STEP 1（～2018年）：“場”&“ネットワーク”の確立

STEP 2（～2020年）：賛同企業等の完全実践状態

STEP 3（～2026年）：次世代による活動活性化状態

STEP 4（～2036年）：真（新）価値による「豊かな」社会実現

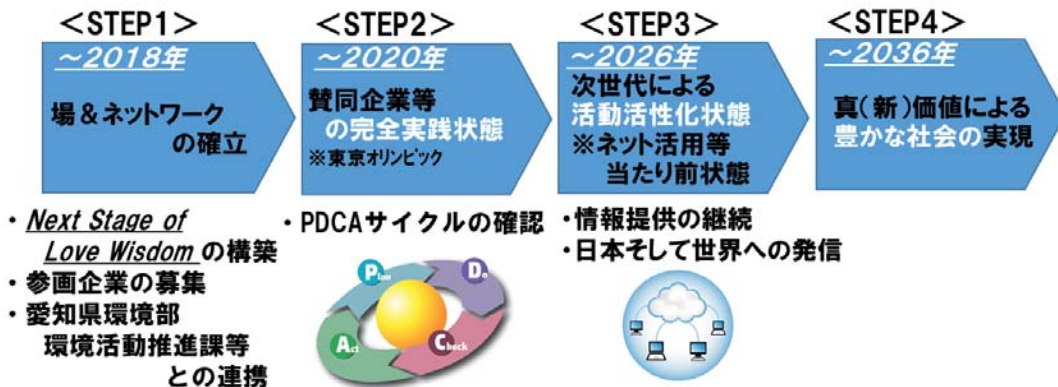


図7. 提言実現のためのマイルストーン

#### 5. 期待される波及効果及び活動のまとめ

<波及効果>

企業（経済面）においては、社内への啓発活動になる ESD の活動を社外にも発信（見せる・伝える）することによって、企業価値が向上し、ステークホルダーへの訴求にも繋がる。また、ESD のイベントを核に、県への集客力が向上し、観光業の更なる活性化が図れると考える。

愛知県としてもこれまでも ESD ユネスコ世界会議を開催（2014.11）、ユネスコスクール登録数ナンバーワン（小中学校含め、加入率約 10%）等、先進的に対応してきた愛知県が進めて行くからこそ、全国に活動を加速する役割を果し、日本の ESD 普及を牽引することが出来ると考える。

#### <活動まとめ>

ESD の重要性の把握と訴求の必要性を認識した中、その施策として、下記二つの提言を行った。

- ・「新たな場」の提供
- ・促進させる「*Next Stage of Love Wisdom*」の設立

最後に、今後も愛知県が ESD 先端都市として、「真（新）の豊かさの実現」に向け、国内外へ発信し続ける施策として、この提言を活かしてもらいたい。

#### 6. 最終報告会における議論

- ・真（新）の豊かさとはどういった内容なのか？  
←「ESD for U.15+」グループでは「自己的・物質的な豊かさだけではなく、みんなが幸せに暮らせるよう一人ひとりの行動が見直された時の“豊かさ”」と考える。
- ・この活動は事業として展開出来るか？  
←AKJ を中核とした推進団体は、事業としては難しいと考える。
- ・現在の学校教育での ESD 推進状況は？  
←豊橋市では、様々な活動が実施されているが、全県下では優先順位は低い。

#### 【引用文献】

- (1) 環境省 環境こども白書 2016 P26
- (2) 平成 27 年度版 環境白書 愛知県 P8
- (3) 平成 27 年度版 環境白書 環境省 P71
- (4) 内閣府政府広報室 平成 26 年世論調査（附帯調査） 内閣府 政府広報オンライン  
「持続可能な開発のための教育（ESD）に関する世論調査」 2014 年 10 月 20 日  
<http://survey.gov-online.go.jp/tokubetu/h26/h26-esd.pdf>
- (5) 文部科学省 ESD とは ESD 持続可能な開発のための教育  
<http://esd-jpnatcom.mext.go.jp/>
- (6) 文部科学省 ユネスコスクール加盟校一覧（2015 年 6 月現在）  
<http://unesco-school.mext.go.jp/schoolslist/>
- (7) 著書：持続可能性の教育（教育出版）著者：佐藤学 P61